

令和 2 年度第 1 回 総合教育会議 議事録

会議名称	令和 2 年度第 1 回 総合教育会議
開催日時	令和 2 年 8 月 4 日 (火) 10 時 00 分～11 時 00 分
会 場	芦屋町 本庁舎 3 階 課長会議室
委員の出欠	<p>【委員】</p> <p>町 長 波多野 茂丸 [出席]</p> <p>教 育 長 三 柵 賢二 [出席]</p> <p>教育委員 長戸 隆弘 [出席]</p> <p>教育委員 井上 弘行 [出席]</p> <p>教育委員 本田 幸代 [出席]</p> <p>教育委員 吉崎 強志 [出席]</p> <p>【委員以外の出席者】 (オブザーバー)</p> <p>副 町 長 中西 新吾</p> <p>学校教育課長 新開 晴浩</p> <p>生涯学習課長 本石 美香</p> <p>【事務局】</p> <p>企画政策課長 池上 亮吉</p> <p>企画政策課 企画係長 本郷 宣昭</p> <p>企画政策課 企画係 甲斐 智志</p>
議題	<p>1 芦屋町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価報告書について</p> <p>2 その他</p>
合意・決定事項	<p>○「芦屋町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価報告書」の内容について了承される。</p> <p>○次回の会議は 2 月開催。次年度の取り組みについて説明予定。</p> <p>緊急の事案があれば、その都度開催する。</p>
傍聴者	なし

令和2年度第1回総合教育会議 議事録

1 町長あいさつ

新型コロナウイルスの感染拡大から約半年が経つ。各校長先生、教職員の皆様方のストレスもさることながら、子どもの精神面、健康面、勉強面等にご尽力をいただき、感謝を申し上げます。

新しい生活様式について、まず思うのは、慣れること。我々大人は年齢を重ねて色々な経験をしているが、子どもにとっては初めての経験である。いかにして気持ちを前向きな方向に持っていくかが重要である。本日の総合教育会議でも前向きな議論をお願いしたい。

行政にできることをするために、毎週新型コロナウイルス対策本部会議を開催し、各課の対応について協議している。今年は夏の楽しみである花火大会を中止したが、夏の思い出をということで、小学6年生までの子どもに手持ちの花火を配らせていただき、町民の皆様方にはサプライズ花火を打ち上げさせていただいた。近隣市町村の感染状況を注視しつつ、町の職員も綱渡りのような日々を送っている。

本日の総合教育会議は、芦屋町の教育について審議する大切な会議であり、委員の皆様方におかれましては、忌憚のない意見を賜りたい。

2 議 題

(1) 芦屋町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価報告書について

【資料1】点検及び評価報告書、【資料2】生田教授の意見書

○主に、学校教育に関する事項は三桝教育長、社会教育に関する事項は本石生涯学習課長より説明。

【意見等】

○ 3点申し上げる。1点目は、私が最も印象的だったのは芦屋釜の里である。この一年間の発展は素晴らしいと思った。茶道界への周知はもちろんのこと、泉屋博古館と共同で中国青銅器に関する鑄造実験を行い、貴重な成果を収めている。平成7年に定められた「芦屋釜の里設置及び管理運営に関する条例」には、設置目的として「芦屋釜の復興を図るとともに、芦屋釜に関する資料を保存展示し、住民の文化教養の向上と郷土意識の高揚に寄与するため」と規定されており、「郷土意識の高揚」は現在で言うシビックプライドに近いものと考え。25年前に定められた条例だが、現在に至っては遥かに広い範囲、高いレベルで発展していることを再確認した。来春には、すでに独立した鑄物師が工房を構え、2人目も独立する予定である。茶道人口が減少しており厳しい面もあると思うが、長年かけて解明した中世の芦屋鑄物師の技術を再び途絶えさせてはいけなし、むしろ継続し、町の地場産業として成り立つようにしていかなければならない。そのためにも、町の支援をお願いしたい。

2点目は、シビックプライドについてである。八朔行事や芦屋釜はもちろん、山鹿貝塚も国レベルの文化と言ってよいと思う。東京国立博物館の縄文展では、博物館からの要請により、山鹿貝塚関連資料が展示された。貝塚は小学6年生の日本史で習うと思う

が、この史跡を授業でも活用していくとよいのではないだろうか。

3点目は、生田教授からの意見書についてである。総評の「芦屋町では、幼・保・小・中の連携、関係各機関の連携、学校・家庭・地域の連携など、「連携」という柱が、それぞれの活動の改善につながっていることがわかります。その中で創出された芦屋型の学習過程（一人学び・協働学び）に代表されるような独自のシステムは芦屋町の財産といえます。今後、さらに「連携」が深まることで、これらの強みを生かした取り組みが進展することを期待します。」という内容に対し、非常に好感をもった。学校教育はもちろん、生涯学習も連携なしにはやっていけないし、連携することによって発展していく。この総評を念頭に置いて、各取り組みを進展させていただきたい。

⇒ シビックプライドについて、資料1の8ページ【課題】「職員が校区の特色や地域の声を認識し、地域の中で育てる教育の意義について理解した上で実践させることが必要である。そのための研修を年度初めに位置づけたい。」とは、山鹿小学校から出たものである。校区には、芦屋釜の里、芦屋歴史の里、そして山鹿貝塚等、地域の特色があるが、教職員が十分に認識していない。校長はこの点を強く感じているため、総合的な学習に位置付けたいと考えている。まずは山鹿小学校から始めていきたい、ということである。

⇒ 山鹿貝塚以外にも、芦屋歴史の里や洞山等、学ぶことができる場所があるので、子どもを連れて行き実践する等、町の資源を広範囲に活かしていただきたい。

○ シビックプライドの醸成について、小学生や中学生は町のことを愛していると感じる。一方、大人はあらゆる活動においても高齢化で世代交代がうまくいっておらず、活動する人が限られてくる状況に対し、これからを見据え、人材の発掘が課題ではないかと感じている。

⇒ 生涯学習の現場に限らず、リーダーシップを発揮する人が少なくなっている。組織の脆弱化と言うか、リーダー、サブリーダー等が引っ張り、お互いが助け合うような雰囲気が弱まっていることに危機感を感じており、悩みの種である。

○ 地域のことを知らない保護者世代について、私も子どもから教えてもらうことが多い。私の子どもが小・中学生の頃は「芦屋かるた」で学び、親に教えるというサイクルができていた。時間はかかるかもしれないが、突き詰めていけば、大人も地域のことを知ることができると思う。町民が町を好きにならなければ意味がないので、そこに尽力していただきたい。

⇒ シビックプライドは、地域と町民の接点であり、それを育むのは文化施設だと思う。町には文化施設が整っているので、子どもだけではなく、大人にもアピールしていけばよいと思う。

○ 学力向上の取り組みについて。「C判定の児童数を25パーセント未満」というのは高い目標ではないかと改めて感じた。

学力というのは学校における授業と家庭学習からなるが、学校における授業はこれ以上ないくらい先生方が頑張っていると思う。一方、家庭学習は家庭任せになり、滞っている部分がある。そこでICTは子どもの興味を引き、個別の課題を出しやすいので、ぜひタブレットで家庭学習に新しい風を吹かせていただきたい。

○ 生涯学習について、講座の動画配信は考えていないのか。

⇒ 今のところ考えていない。

- 芦屋釜の里ができてから 25 年になるが、芦屋釜、そして芦屋釜の里は町外からはすごい物、すごい施設があると評判を受けるが、町民からするとあって当たり前になっている。外への情報発信はよくやっているし、県外から新たな工房業務従事者もやってきた。将来的には町民の中から芦屋釜を残していきたいという子どもを輩出できるよう、各学校には取り組みを強化していただきたい。

学力向上の取り組みについて、「C判定の児童数を 25 パーセント未満」とあるが、個人的には「15 パーセント未満」が望ましいと思う。学力が不足している児童が、学校で学習に一生懸命取り組むようになれば基礎学力は上がらない。規律正しい環境を低学年から積み上げていっていただきたい。また、基礎学力の向上には、反復の徹底が効率的だと考えている。他の市町村でも効果が上がっているように、計算、漢字の書き取り、音読を取り入れていけば、もう少し芦屋町も学力が向上すると思うので、取り組んでいただきたい。

(2) その他

[事務局]

- 次回の会議は 2 月開催。次年度の取り組みについて説明予定。緊急の事案があれば、その都度開催する。